

特集 美肌

フェムケアとの融合に商機 美肌市場に拡大の兆し

コロナ禍で新たなユーザー開拓が進んだ美肌サブリ。フェムケア・スポーツ市場との融合、機能性表示食品の開発加速、インバウンド需要の復活など、さらなる市場拡大のテーマが見えている。原料サプライヤーでは、保湿、弾力サポート、抗シワ・シミから紫外線対策に至るまで、各社各様の“美肌エビデンス”を積み上げ、訴求力を強めている。



肌トラブルはサブリで自宅ケア

新型コロナウイルスの拡大によるテレワークの増加、外出自粛を背景に、2020年は美容・美肌サプリメントの需要が低迷し、新商品開発・上市がストップしたケースが目立った。ただ、2021年に入り、市場環境は一変した。マスク着用の常態化、アルコール消毒の多用による肌トラブルのケア対策商材を求める消費行動が加速し、機能性表示食品を含め、商品開発が活発化、美肌サブリ市場は回復路線に転じた。その後、外出機会増に伴い、美容市場は拡大基調に。男女問わず、「自宅でできる肌トラブル対策」としてサブリメントの需要が高まった。大手サブリメーカーからは、「インバウンド需要の復活は美肌サブリ市場をさらに押し上げていくだろう」「東南アジアを中心に、メイドインジャパンの美肌サブリの輸出が急伸。美白をコンセプトにしたサブリに商機がある」などのコメントがあった。

スポーツ、アイケア、ダイエット+美肌で差別化を

市場には、保湿、抗酸化、抗糖化、抗炎症、抗紫外線、アクネ菌対策、シミ予防、美白、コラーゲン産生促進など、多種多様なコンセプトの“エビデンスベースの美

肌素材”が流通している。

美肌原料サプライヤーへの聞き取り調査では、好調な要因として、「大手化粧品ブランド・異業種企業での商品化」「大型素材との相乗効果」「機能性表示食品での採用増」などのコメントが複数あった。「近々、大手飲料メーカーが上市する美容飲料に新規採用された」との情報も。総じて、ダイエット、アイケア、スポーツサプリメントの+α素材としての新規採用が目立つ。スポーツニュートリション分野では、プロテイン製品への配合を中心に、ジョギング+紫外線対策、筋トレ+肌荒れ対策をテーマに、アップトレンド市場へのアプローチが進んでいる。

「大手化粧品ブランド・異業種企業」については、フェムケア市場の盛り上がり追い風となった。女性に特化した商品開発を進める中で、美肌・美容素材は欠かせない存在に。

有名化粧品メーカーでは「今後も化粧品を軸に事業展開していくが、主力商品と親和性のある美容サブリの開発は大きなテーマ」とする。クリニック、エステサロン、フィットネス、理美容室、ネイルサロンなどが、美容・美肌訴求のPB商品を開発するケースも。一方、「今後は、シミ・シワ・くすみ対策をコンセプトに、男性をターゲットにした美容サブリ・飲料にビジネスチャンスがある」とし、メンテッ

クを切り口とした商品開発を進めている某雑貨ブランドもあった。

「大型素材との相乗効果」については、コラーゲン、セラミド、プラセンタ、ヒアルロン酸など、市場を代表する美容素材との相乗効果研究が奏功した。体感性や独自性を高めた商品が求められるなかで、大型素材とのシナジーエビデンスが評価されている。

機能性表示食品900品に迫る 1年で186品新規受理

「肌」をヘルスクレームに含む機能性表示食品は889品(2024年5月28日現在)。この1年で200品弱が新規受理されており、総受理数の1割を超える。2020年度(108品)、2021年度(173品)、2022年度(183品)、2023年(186品)と受理数を伸ばしている。背景には、商品形態や関与成分、表示内容が多様であることに加えて、ダブル・トリプルヘルスクレーム商品での採用が多いことにある。受理品を見ると、肌ケアに特化した機能性表示と、「快眠」「ストレス」「アイケア」「整腸」「脂肪対策」と組み合わせられた機能性表示に二分される。

関与成分はセラミド、ヒアルロン酸を筆頭に、N-アセチルグルコサミン、アスタキサンチン、乳酸菌、クロロゲン酸、大豆イソフラボン、コラーゲンペプチド、ローヤルゼリー、GABA、フィコシアニ

ン、プロテオグリカン、ベータカロテンまで多岐にわたる。秋ウコンエキス(ハウスウェルネスフーズ)、月桃葉抽出物(丸善製薬)など、エキスを関与成分する受理品もある。表示内容は肌の水分保持、うるおい・保湿力サポート、弾力維持から紫外線対策、肌の不快感改善まで。プロックリー、もやし、トマト、パイナップル、パプリカ、オレンジなど、生鮮食品での受理も25件まで増えた。

抗酸化、抗糖化介した美肌機能に注目

美肌市場で頭角を現しているのは、抗糖化、抗酸化機能を有する素材。

抗糖化作用を訴求する素材は、AGハーブMIX、トマト種子、桜の花、紫茶、マキベリーなどの植物エキスがある。糖化によって生成されるAGESが皮膚中に蓄積されることで肌の老化を引き起こすため、AGES生成阻害作用、AGES分解促進、食事でのAGES吸着・排出など、多角度からの研究が進められている。

抗酸化素材では、アスタキサンチン、トコトリエノール、アムラ、還元型クルクミノイド、ベータカロテン、微細藻類由来素材などが代表的。抗酸化機能を介した多機能性が特長で、肌の保湿・弾力性から抗紫外線まで、各社各様のエビデンスを蓄積している。

美白原料



SHQ-1(エス・エイチ・キュー・ワン)は、HQ(ハイドロキノン)の効果そのままに、お肌にやさしく浸透する構造により刺激をおさえることで、安定性を改善することでこれまでになかった安全性を実現。日本だけでなく、グローバルに医療機関でも取り扱われている美白成分です。従来処方箋としてでしか扱われなかったクリニック専用HQを超えた、化粧品にも導入できる美白原料の原点とされています。



株式会社 環境経営ホールディングス

https://www.eco-m.co.jp/

SHQ-1 (安定型徐放性ハイドロキノン) とは?

有効性40%UP *1 その効果は実証済

SHQ-1は、多くのドクターの協力により開発されました。シミの原因であるメラニンの合成を阻止し、チロシナーゼ酵素の活性を抑えると同時に、出来てしまったメラニンを還元し取り除く還元美白効果においては、日本の代表的な美白成分ビタミンC(アスコルビン酸)、アルブチンやコウジ酸の10倍~100倍といわれるHQ(ハイドロキノン)の効果をそのままに、安全性は多くの試験データにより証明されています。独自の製法により徐放(お肌に徐々に浸透していく作用)させる構造。皮膚の浅い部分にメラニン色素が異常増殖・色素沈着したシミ²には効果的です。

*1 公益社団法人 日本皮膚科学会発行「ハイドロキノン含有新規美白剤とその安全性・有効性の検討(臨床比較)」
*2 かんばん(肝斑)、そばかす(雀斑)、炎症後色素沈着、老人性色素斑(日光黒子)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| HQ(ハイドロキノン) | SHQ-1 (安定型徐放性ハイドロキノン) |
| × 肌を刺激しやすい | ○ 刺激性・安全性を改善 |
| × 浸透しにくい | ○ 独自製法で効果的な浸透を実現 |
| × 酸化しやすい | ○ 成分安定化に成功 |
| × 刺激臭がする | ○ 無臭の配合製法 |

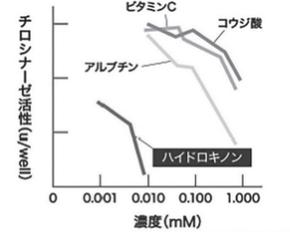
公式サイト shq1.org
SHQ-1 について詳しくはこちら



刺激等に関する結果



種々の色素沈着に対する有効性の合計



各疾患(肝斑、雀斑(そばかす)、炎症後色素沈着、扁平苔癬角化症)効果がみられた割合を合計すると

1.4倍 40% UP

全国の信頼できるドクターからこのようなご意見をいただいております

25年前よりハイドロキノンを処方してまいりました。従来は患者さんの体質や体調によってわずか1~2回の使用で発赤(ほっぺ赤)やかゆみ、ヒリつき感、接触性皮膚炎を起こす方もいらっしゃいました。そのため色々なハイドロキノンを試しましたがクレームがなくなりませんでした。しかし、SHQ-1に切り替えてからは、一切のクレームがなくなりました。

従来のハイドロキノン処方の際は、刺激による炎症をおさえるために、ごく微量のステロイド薬を使用していました。SHQ-1を処方するようになってからは赤みやかゆみなどの訴えがなくなり、ステロイド薬を使用する必要がなくなりました。

SHQ-1は刺激や赤みが生じることがないので、ここ数年シミの外用薬としてクリームに配合して処方しています。従来よりも変化しにくいという点でも処方しやすいです。

皮膚科専門医の先生

形成美容外科専門医の先生

大学総合病院・皮膚科医の先生

企業動向

安定型徐放性ハイドロキノン「SHQ-1」 「低刺激」「浸透力」「エビデンス」に定評 環境経営ホールディングス

㈱環境経営ホールディングス(横浜市港北区)は、安定型徐放性ハイドロキノン『SHQ-1(エス・エイチ・キュー・ワン)』を供給している。原料は医療機関からの相談を受け開発したもの。ビタミンCやアルブチン、コウジ酸の10倍~100倍のシミ予防や還元美白効果をそのままに、強い刺激による発赤や炎症、酸化などの課題の解決を図った。

低刺激の理由は、約8時間かけてじわり浸透させることにある。従来のハイドロキノン「HQ」には無かった酸化安定性を確保し、少しずつ有効成分を放出させて効果持続性を高めて、浸透力が高い事が確認されている。低刺激性については、ヒト臨床試験でも実証済み。シミなどにしっかりアプローチできることを訴求している。

SHQ-1は医療機関で20年以上の使用実績がある。「ハイドロキノンの見識や使い方について、一部で誤った情報が回っているように思う」。こう語るのは、同社・企画営業部の和田氏。肌トラブルに悩む声の増加を懸念している。「従来のハイドロキノン「HQ」は肌に急速にストレスがかかるため、肌が拒絶反応を起こし、赤みや色素沈着につながる恐れがあった。肌トラブルの出現にも関わらず継続使用する事は、かえって深刻な肌状態へと悪化させかねない。既に技術は充分進歩しており、肌トラブルのリスクを回避して、ユーザー様に安心して長く使い続けてもらえる、安全に浸透力を高めた原料を選択肢として考える事も重要だ」という。

安定型徐放性ハイドロキノン「SHQ-1」

は平成13年度の薬事法改正に伴う“化粧品成分処方の規制緩和”を機に化粧品利用が本格化。産官学活用プロジェクトで開発した安定性、安全性、信頼性、医師の高い評価が需要を後押ししている。

特筆すべきは、豊富なエビデンスデータにある。日本皮膚科学会発行『ハイドロキノン含有新規美白材開発とその安全性・有効性の検討(臨床比較)』では、皮膚疾患に対する有効性を公表した。対象は女性85例と男性11例、年齢は6歳から82歳まで、部位は顔79例、顔以外28例で、期間は3ヵ月から1年の経過観察を行った。その結果、肝斑は50%、そばかすは80%、炎症後色素沈着は81.3%、扁平苔癬様角化症は33.3%において効果を認め、HQ比では全体で1.4倍の効果を示した。

SHQ-1に関する試験はこのほか、外観(顕微鏡写真)、抗酸化試験、加熱試験、紫外線試験等のデータも。同社ではエビデンススペースによる提案を強化していく。

肌の弾力維持、保湿から紫外線対策まで 機能性表示対応でアスタキサンチン、プロテオグリカンを提案 富士化学工業

富士化学工業(株)(富山県上市町)は、美容・美肌市場に向けて、機能性表示対応素材として、天然アスタキサンチン『アスタリール®』、北海道産『高濃度プロテオグリカン』を提案。機能性表示食品の開発提案、原料・OEM供給に対応する。受理実績・ノウハウを活かし、処方・商品設計を含めた機能性表示食品の届出サポートの可能。

『アスタリール®』は、スウェーデン・北米の自社工場で量産体制を構築する同社の主力原料。パイオニアとして「世界最多のエビデンス・用途特許」を積み上げ、機能性表示食品への対応では、「アイケア」「美容」「ストレス緩和」「疲労感軽減」の4カテゴリーで受理実績がある。

美容関連で表示可能な機能性は、「抗酸

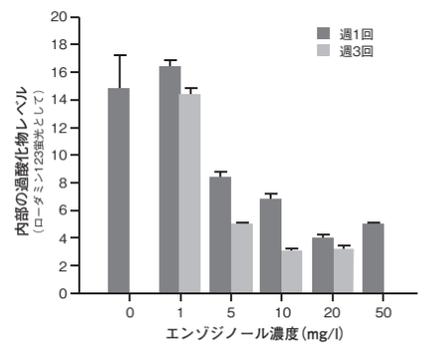
化作用を持つアスタキサンチンは、肌の水分量と肌の弾力を維持することで、肌の健康を守るのを助ける機能」「肌のうるおいを保ち、乾燥を和らげる機能」「紫外線の刺激から肌を保護することを助ける機能」など、多岐にわたる。低用量(3mg/日)での機能性表示が可能な点も強みとなり、サプリメント剤型を中心に、菓子類(グミ、キャンディ、チョコレートなど)からドリンク、一般食品用途まで、複数の商談が進行中。「アイケア、疲労軽減、ストレス緩和などのダブル・トリプルヘルスクレーム素材としての採用も進んでいる」という。

北海道産『高濃度プロテオグリカン』では、非変性プロテオグリカンを93%以上で規格化した『PGパウダー FCI』、プロテオグリカンおよび非変性型コラーゲンを各40%以上で規格化した『PGコラーゲン FCI』をラインアップ。ヘルスクレームは「肌弾力を維持し、肌の健康に役立つ機能」。本格供給から間もないが、すでに製品化実績もある。

NZ産松樹皮エキス『Enzogenol®』 エビデンス、安定供給、価格優位性で高評価 バレンタイン

㈱バレンタイン(東京都渋谷区)は、「美肌」訴求素材として、ニュージーランド産松樹皮エキス『Enzogenol® エンゾジノール』を提案。豊富なエビデンス、特許製法、価格優位性などが評価され、中でも、抗酸化活性やタンパク酸化の低減、DNAダメージの低減など、女性サポートに繋がるさまざまな作用は、美肌訴求はもとより、話題のフェムケア訴求の開発などでも引き合いが出ているという。

『Enzogenol®』は、ニュージーランドのEnzo Nutraceuticals Ltd製。ラジアータ松を原料に、化学薬品や有機溶媒を一切使用しない「純水抽出法」を採用し、樹皮含有の広域なスペクトルをもつポリフェ



ノールの活性を維持したまま、変性させずに抽出したエキス。多種類のフラボノイドの中でも、とりわけオリゴメリック・プロアントシアニジン(OPC)を80%以上で規格化する。

美肌に関するエビデンスは、ニュージーランド・オタゴ医科大学生物活性調査グループによる皮膚細胞培養研究に基づき、これまで①皮膚浸透作用、②皮膚線維芽細胞の成長促進作用、③皮膚線維芽細胞における細胞内過酸化物質の減少、④UVAおよびUVBからのヒト皮膚細胞の保護作用、⑤外部フリーラジカルによる損傷保護作用、⑥紫外線によるダメージから皮膚細胞を保護する作用、⑦コラーゲンに結合して分解を防止する作用——などを確認済み。さらに、自然発生する内部フリーラジカルに対しても、皮膚細胞の防御を高める作用を確認済みだ。エンゾジノールを皮膚線維芽細胞に添加し、細胞内部の過酸化物質負荷量を測定した試験では、内部生成フリーラジカルに対抗する細胞の防御が、エンゾジノールによって高められたことが示された(図)。

このほか、抗酸化作用、抗炎症作用、眼・脳・皮膚の健康に関するデータも保有。ヒト臨床試験では、酸化によるタンパク質とDNA損傷の改善(ニュージーランド第516367号)や、脳認知機能の改善(ニュージーランド第540257号)のほか、加齢による視力低下(遠視)の改善、血圧降下作用、血流改善作用、糖代謝の改善などを確認済みだ。

機能性表示の届出 ご相談ください

天然アスタキサンチン アスタリール®

北海道製造 高濃度プロテオグリカン



機能性対応
ストレス緩和



機能性対応
肌の弾力維持
リフトアップ効果



機能性対応
ピント調節
目の疲労感軽減



機能性対応
肌の弾力維持
保湿、紫外線対策



機能性対応
膝関節の違和感の軽減
軟骨代謝バランスを改善



機能性対応
一時的な
疲労感軽減

取り扱い原料

アスタキサンチン原料「アスタリール」、非変性プロテオグリカン / 非変性II型コラーゲン

富士化学工業株式会社 Fuji Chemical Industries Co., Ltd.

〒105-0011 東京都港区芝公園1-8-21 芝公園リッジビル2階
TEL 03-3437-2352 https://www.fujichemical.co.jp/life_science/index.html



注目のアクティブシニア向け 高機能食品素材

シアル酸高含有
燕の巣加工品

ポリアミン高含有
大豆抽出物



コロカリアの効果

New フェムケア・更年期 対策への効果

- 美肌効果
- コラーゲン層肥厚効果
- 骨代謝に対する効果
- 皮膚老化抑制効果 など

ソイポリアの効果

New 筋力向上効果

- 脱毛抑制効果
- コラーゲン合成促進効果
- 軟骨再生の促進効果
- 骨代謝改善効果 など

詳細はHPまたは弊社営業員まで!

<http://www.combi.co.jp/f-foods/>

コンビ株式会社

ライフサイエンス事業部
〒338-0832 さいたま市桜区西堀5-2-39
TEL: 048-845-5710